そな～れ通信

令和５年７月号　第９２号

★デイサービスそな～れ
〒424-0901
静岡市清水区三保 1800-1
TEL　054-335-0400

★小規模多機能ﾎｰﾑそな～れ
★グループホームそな～れ
★居宅支援事業所そな～れ
〒424-0901
静岡市清水区三保 1598-14
TEL　054-335-0376
FAX　054-335-0506
Email　npo.sona-re@za.tnc.ne.jp
URL　https://sona-re.net
Twitter　@sona_re

三保一小６年生へ戦争体験伝承
今年はついに対面で！

一昨年度・昨年度と実施してきた地元･三保一小の６年生への戦争体験伝承授業。これまではコロナ禍で、デイサービスと６年生の教室をリモートでつなぎ、画面越しの授業でしたが、今年はついに直接対面で実施することができました。小学校の体育館に 99 才，94 才，93 才，92 才のデイ女性利用者が出向き、6 年生約 40 人を目の前にして、実体験を語りました。

まずはデイサービスで制作した手作り紙芝居『あの時、三保は』を上演。この紙芝居は三保生まれ三保育ちのＡさん(99 才)が昭和 19 年～21 年に経験したことを描いています。夫の出征中に子供を出産、空襲警報が鳴る中、赤ん坊を抱えて必死に逃げ、終戦からだいぶ経った頃に夫が無事に帰ってくるというお話。6 年生の皆さんは食い入るように紙芝居を見ていました。その後、他の 3 人の方の戦争体験を簡単ですが発表し、質疑応答に移りました。一部を紹介します。

「防空壕の中の様子は？ 安全性とかはどうだったのですか？」

「たたみ2畳程で、四方を板で囲んで、その上に簡単な屋根をかぶせていた。中は蚊が多くて困った」

「防空壕の中で身を寄せ合い、どうか真上に焼夷弾が落ちてきませんようにと祈っていた。周りが焼夷弾で火事になると、そのままでいたら蒸し焼きになってしまうので、防空壕を出て山の方へ逃げた」

「当時、天皇陛下のことはどう思っていましたか？」

「天皇陛下はもちろん天皇陛下だが、私の中では戦争に行った兄二人が無事であることの方が大事だった」

「戦争中はどんな思いで過ごしていましたか？」

「赤ん坊の命を守るのに必死で、それだけを考えていた」

「あの頃のようなつらい思いを、あなた方には味わってもらいたくない！」

子供達からは質問の手が次々とあがり、授業時間をオーバーする程でした。質問の一つ一つに一生懸命答えていくご利用者達。双方のおかげで素晴らしい授業になりました。終了後、ご利用者からは「今の６年生の子供達はしっかりしているなと、本当に感心した」との感想を頂きました。

6 年生の社会の授業では、今、政治や憲法のことを勉強しているそう。今回の戦争体験伝承授業も踏まえ、来たる８月 15 日、グランシップで開催の『戦没者を追悼し　平和を祈念する式典』において、市内の小学校を代表し、三保一小６年生が「平和のメッセージ」を発表する予定だそうです。

新連載！　三保のあの頃 よもやま話(1)　駄菓子屋

駄菓子屋はいつの時代も子供達のオアシス。昔は近所に何軒も駄菓子屋があった。お年寄り達にどんなお菓子を買ったのか伺うと、即座に『にえきり』が美味しかったと言う。三角に切ったコンニャクに棒を刺し、出し汁で煮て甘味噌を付けたもの。いわゆる今のおでんだが、当時はコンニャクだけ売っていたそうだ。夏は、カンナ状の道具で氷を削り取って秘伝の甘露シロップを掛けた『かき氷』や、シャーベット状の氷を箱型に入れて固めた『氷菓子』が人気だったと言う。その他、茹でた『エンドウ豆』や、細い『サトウキビ』が売っていて歯でかじったりもした。サトウキビは江戸時代に追分羊羹の依頼で三保でも栽培をした歴史がある。

戦前のアイスキャンディーの型枠
(データベース『えひめの記憶』より転載)

小遣いが１～２銭だった昭和初期に、飴玉は『鉄砲玉』と言って５個で１銭。それを三角形に畳んだ新聞紙に包んでくれたそうで、エコである。今では高級おつまみの『ながらみ』(巻貝)はキシャゴと呼ばれ、お椀一杯単位で売っていたが、砂が混じって口の中がジャリジャリした事も懐かしい思い出の味である。

北村昭夫（三保在住　富士山世界遺産ガイド）

※デイサービスそな～れの利用者達との昔語りを基に記事をまとめていきます。乞うご期待。

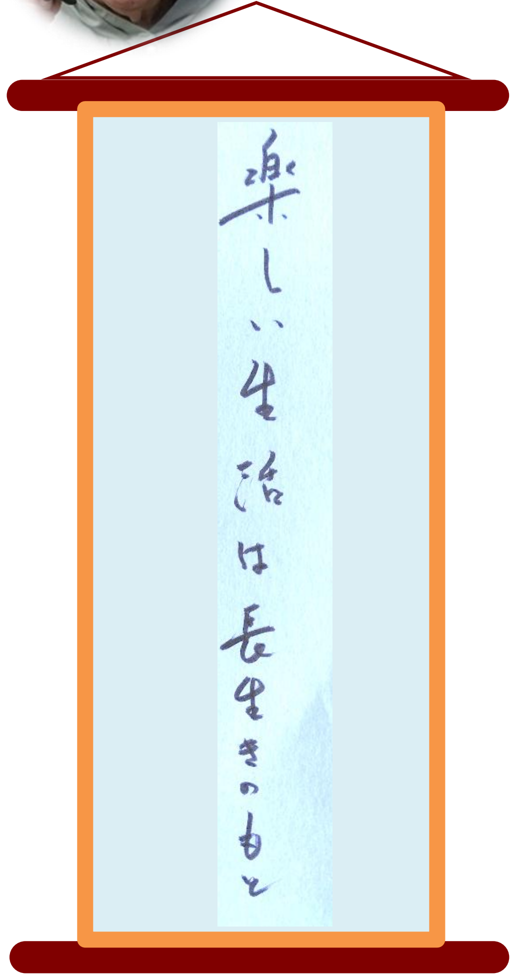
お出かけ情報⑬　『旅リハ』の位置づけ

『旅リハ』という言葉を知ったのは、障害者スポーツ文化センター「横浜ラポール」の方を講師に招いた講演会に参加した時です。『旅リハ』とは、旅行を通じて、障害のある方のココロとカラダを元気にし、生活を楽しむチカラをつけよう！ という“新しいリハビリテーションプログラム”のことです。

“旅行”というと、非日常の贅沢な楽しみ、というイメージがあると思います。だから、「家族に迷惑をかけている身なのに、旅行したいなんて贅沢は言えない」というように、障害のある高齢者は思いがちです。

しかし、旅行は単なる贅沢品では終りません。私は障害のある方々の国内旅行に同行させて頂く中で、数々の感動的な場面、生き方そのものが変わっていく様を目撃しました。車椅子生活の方が、眼下に広がる景色をもっと見たくて、思わず柵をつかんで車椅子から立ち上がった姿。介助ボランティアとの旅行を重ねる中で自信を深めた脊髄損傷の若者が、友人の結婚式に参列したいと、家族だけで東京へ泊りに行ったこと。「ホテルのベッドに手すりがない！」とすぐに SOS を出していた夫婦がベッド周りに机や椅子を移動して手すり代わりにする知恵と度胸をつけていった事例など。旅行から得られる「自信回復」や「生きていて良かったという幸福感」、これらも立派なリハビリになっています。旅行がリハビリツールとしてきちんと認識され、今以上にリハ職･介護職が障害者旅行を医療･介護の実践の中に取り入れて下さるようになることを願っています。

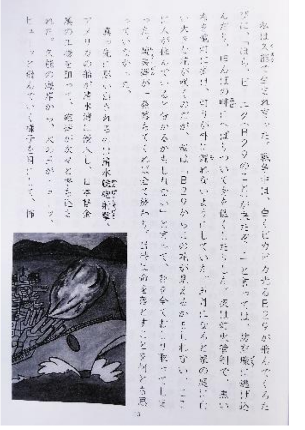
デイサービス
ご利用
中原静子様
（８９歳）
のお言葉



ほっとアルバム

デイサービスから

◆戦後 78 年、戦争体験聴き取り



今年もご利用者様から戦争体験を聴き取り、小冊子(45 頁)にまとめました。16人の体験を掲載。当時の記憶や映像が鮮明に残っておられ、次々と話が出てきます。実体験は聴く者の心を揺さぶる力がありますね。

出来上がった小冊子は三保一小6 年生に寄贈させて頂きました。
（※1 冊 200 円で頒布もしています。欲しい方はご連絡下さい）

◆七夕飾り＆夏祭り

短冊にそれぞれの願い事を書いて頂きました。家族の健康や世界平和を願った文章が次々と出てきました。

夏まつりでは赤いボールを金魚に見立てた金魚すくいや的当てをして楽しみ、賞品もゲット。おやつはたこ焼き＆アイスで。

小規模多機能ホームから

◆ベイドリームへお買い物

お小遣いを持って、それぞれに好きな物を購入しました。懐かしの駄菓子！　大好きな甘い物！　皆さん、目が輝いていましたね。

◆お菓子流し

流しそうめんではなく、お菓子やおもちゃを流したレクを行いました。皆さん真剣な表情です。夏を感じますね。

◆こども園と交流

まつぼっくりこども園さんの夏祭りで、こども神輿の見学に行きました。

可愛らしいはっぴ姿に、元気な子供達からパワーをもらいました。

グループホームから

◆久しぶりのカラオケ

いつも口ずさむ唄を、今日はマイクを手に熱唱♪

十八番の『昔の名前で出ています』等、懐かしい歌謡曲の数々。すっかり昭和ムード。心も若返ります。

◆昼食づくり

福祉体験の中学生と一緒にカラフルな「ハンバーグプレート」に挑戦。ひき肉をこねながらのおしゃべり、楽しかった♡

翌月の昼食レクは「てまり寿司」。寿司種のリクエストは、マグロ・白身魚・アジ。刺身ごとに担当を決めたら、ラップに包んで、かわいいてまり寿司の完成！

楽しかったと大好評でした。

◆さつま芋の苗植え

まつぼっくりこども園の畑にお邪魔して、苗付けの様子を見学。園児達がかわいくてたまらなくて、皆さん、笑顔があふれます。

ホームの小さな畑でも苗付け。元気に育ちますように。